

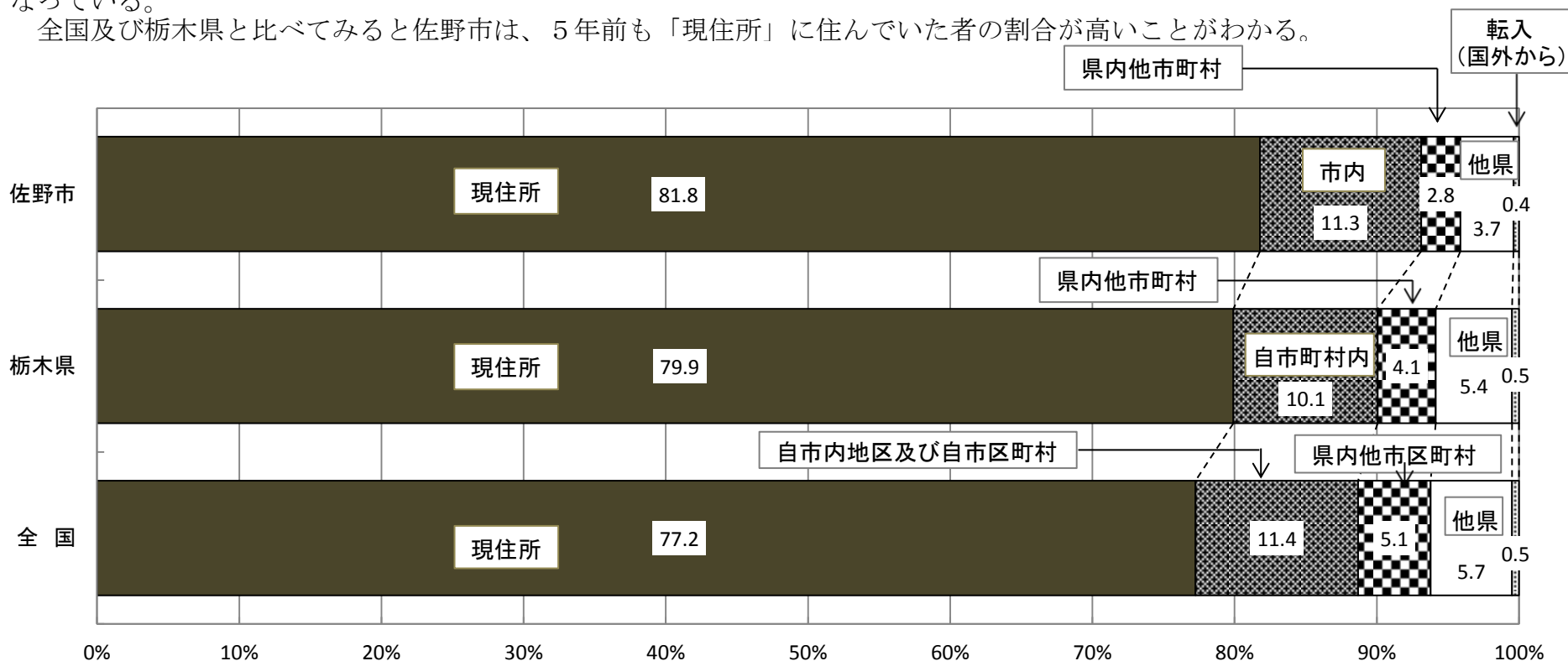
1. 佐野市の移動人口の割合

総人口12万1249人に占める5年前の常住地別の割合¹⁾をみると、5年前も「現住所」に住んでいた者は81.8%となっている。一方、5年前に現住所以外の「国内」に住んでいた者は17.8%、「転入（国外から）」が0.4%などとなっており、5年前は「現住所」以外に住んでいた移動人口は18.2%となっている。

移動人口についてみると、「市内」が11.3%と最も高く、次いで「他県」が3.7%、「県内他市町村」が2.8%、「転入（国外から）」が0.4%となっている。

移動人口を男女別にみると、男性が5万9499人のうち1万567人（18.4%）、女性が6万1750人のうち1万910人（18.1%）となっている。

全国及び栃木県と比べてみると佐野市は、5年前も「現住所」に住んでいた者の割合が高いことがわかる。



(→統計データⅠ)

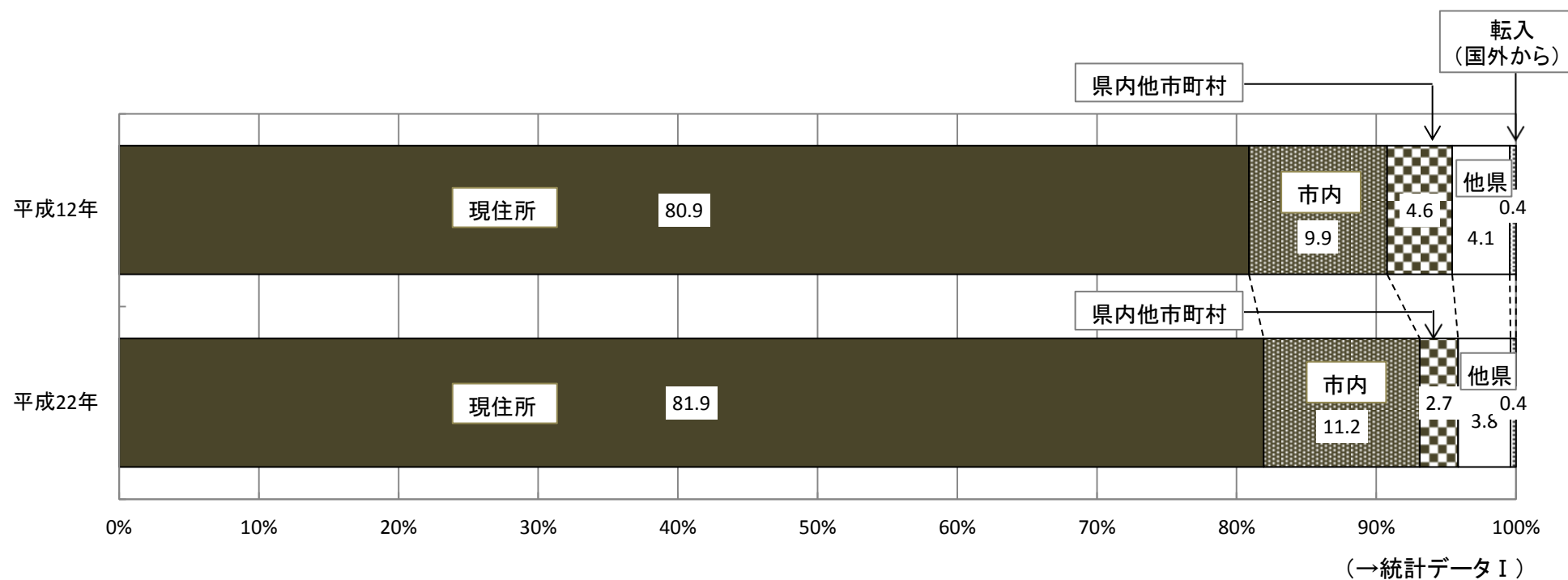
1) 佐野市の総人口から5年前の常住地が「不詳」の者を除いて算出。

2) 平成22年調査から、5歳未満の者についても、出生後ふだん住んでいた場所を5年前の常住地とみなして、集計している。

2. 5年前の常住地別人口の割合(平成12年国勢調査との比較)

「5年前の常住地別人口」は、10年ごとに実施する大規模調査でしか調査しないため、平成12年と5歳以上人口¹⁾と比較してみると、5歳以上人口に占める移動人口の割合は、22年は18.1%（2万476人）となり、12年の19.0%（2万2962人）に比べ、若干低下している。

移動人口の内訳についてみると、「市内」は平成12年の9.9%（1万1882人）から11.2%（1万2669人）に増加し、逆に「県内各市町村」は平成12年の4.6%（5,586人）から2.7%（3,104人）に減少した。「他県」および「転入（国外から）」の割合については、ほぼ横ばいであった。



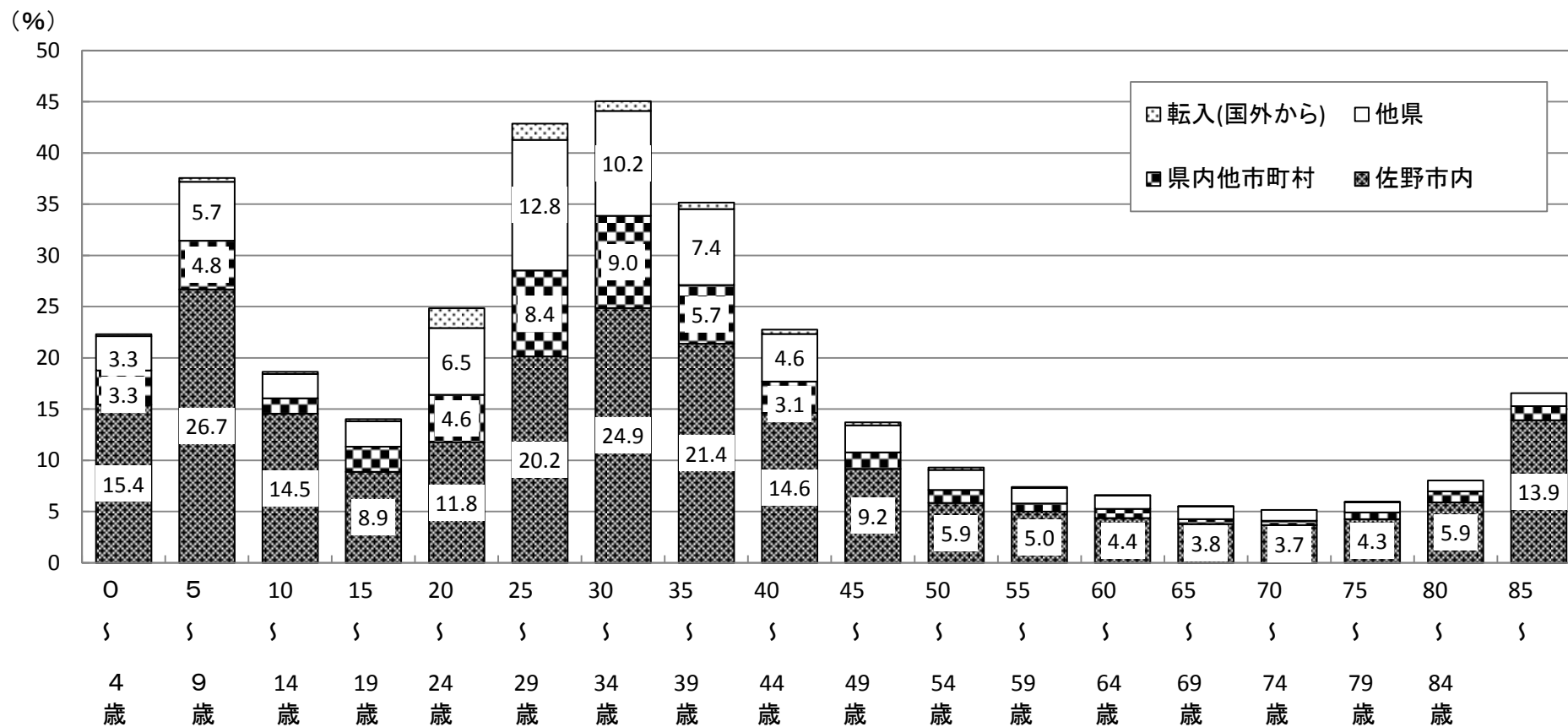
1) 平成12年調査までは5歳以上の人口のみを集計している。

3. 年齢(5歳階級)別にみた移動人口の割合

年齢5階級別人口に占める移動人口の割合をみると、30～34歳が45.1%（3,138人）と最も高く、次いで、25～29歳が42.9%（2,598人）、5～9歳が37.6%（1,898人）などとなっている。

移動人口の内訳についてみると、各年齢階級で「市内」が最も高くなっている。0～4歳、80歳以上の階級を除き、「他県」が「県内各市町村」を上回っている。特に、25～29歳では「他県」が12.8%（773人）、「県内各市町村」が8.4%（508人）と、その差が顕著に現れている。

「転入（国外から）」については、20～24歳が1.9%（96人）と最も高く、次いで、25～29歳が1.6%（95人）と高い割合を示している。

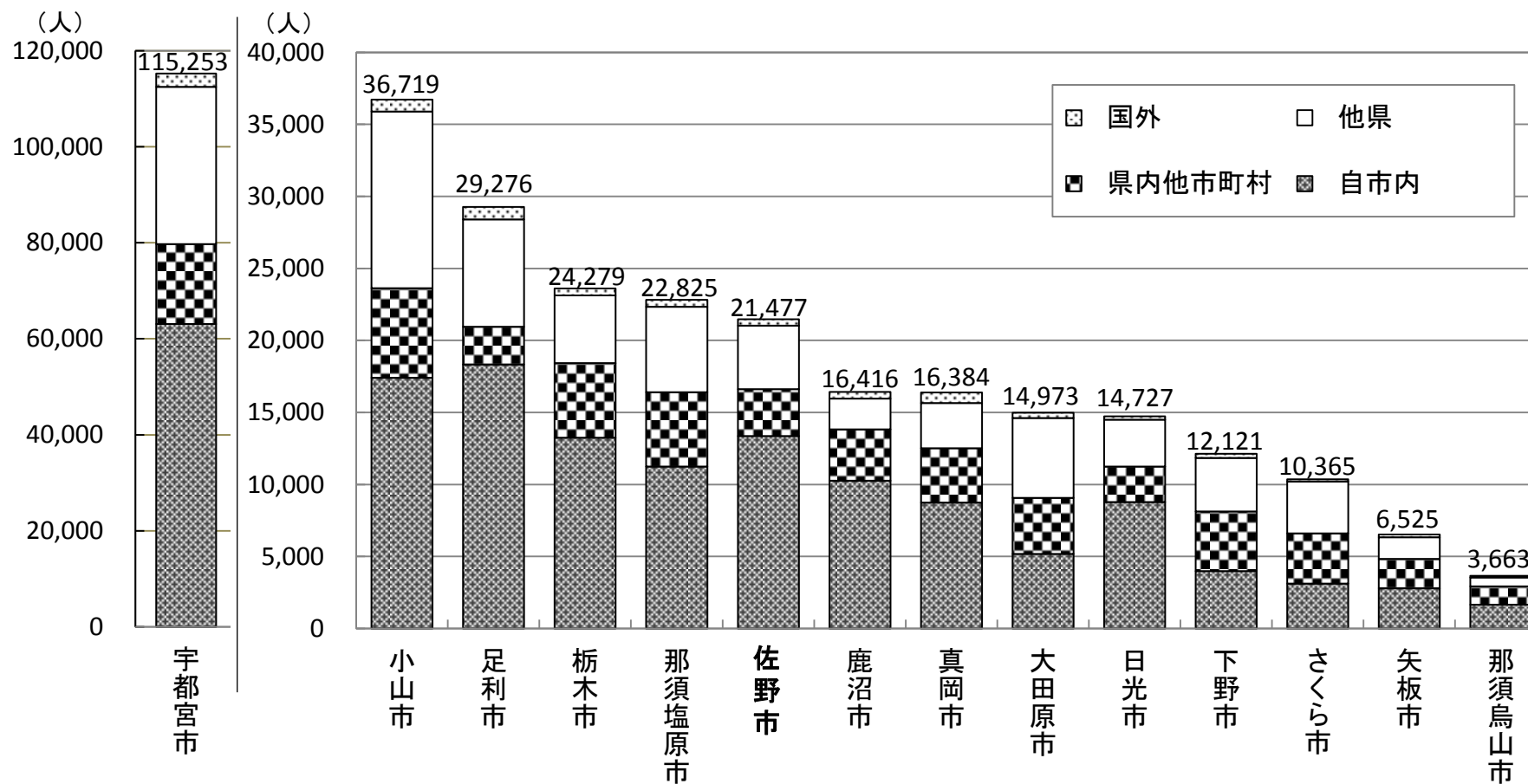


(→統計データⅡ)

4. 県内14市別移動人口

県内14市部の移動人口について比較すると、宇都宮市が11万5253人(24.7%)と最も多く、次いで、小山市が3万6719人(23.6%)、足利市が2万9276人(19.3%)と続いた。佐野市移動人口は2万1477人(18.2%)であり、県内14市部中第6位となっている。

他市と比べ佐野市は、「自市内」の割合が11.3%(1万3362人)と高く(県内14市部中第3位)、「県内他市町村」の割合が2.8%(3,254人)と低い(同13位)ことがわかる。



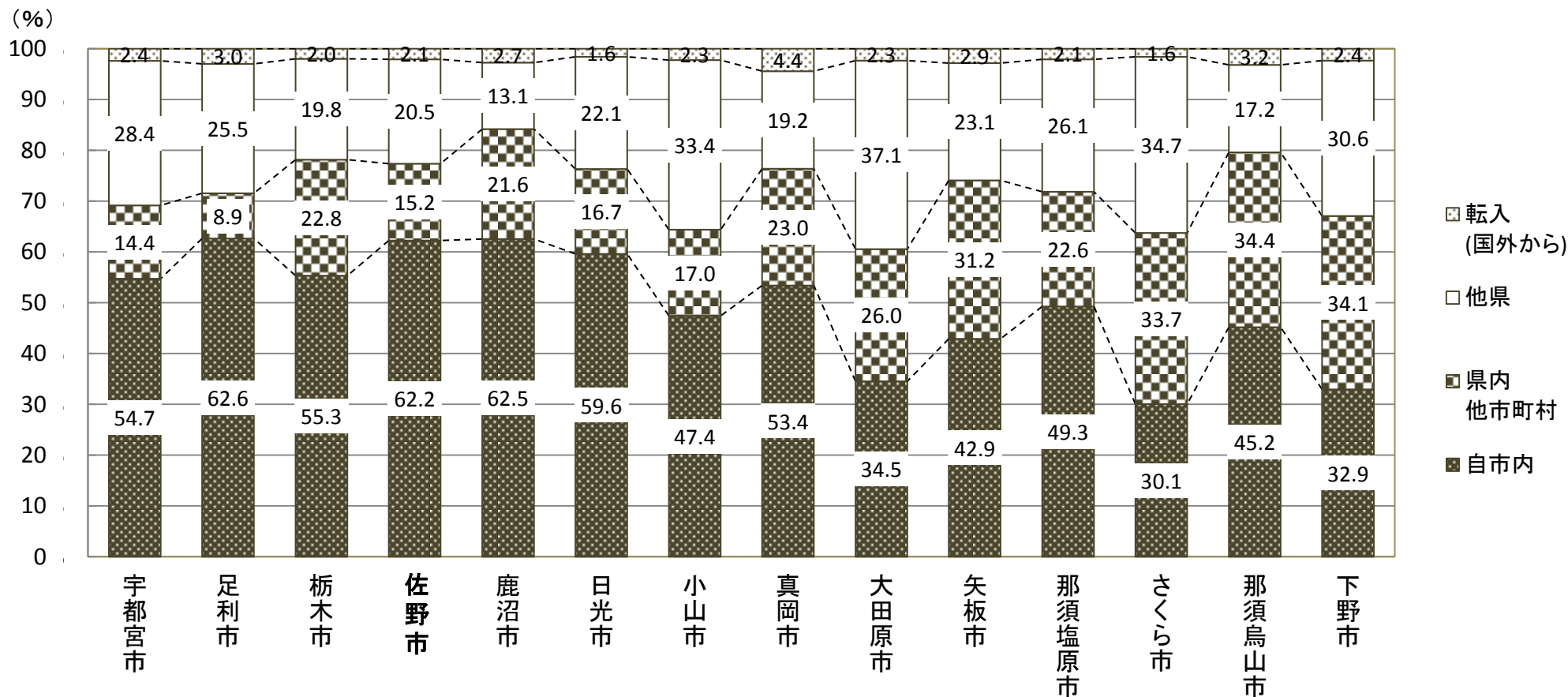
(→統計データⅢ)

5. 県内14市別移動人口の割合

県内14市部の移動人口の割合について比較すると、「自市内」の割合が最も高いのは足利市62.6%（1万8336人）であり、次いで、鹿沼市62.5%（1万265人）、佐野市62.2%（1万3362人）となっている。

次に、「県内他市町村」の割合について比較すると、那須烏山市が34.4%（1,261人）と最も高く、次いで、下野市34.1%（4,138人）、さくら市33.7%（3,488人）となっている。佐野市は15.2%（3,254人）であり、県内14市部中第12位となっている。

また、「他県」の割合について比較すると、大田原市が37.1%（5,559人）と最も高く、次いで、さくら市33.7%（3,593人）、小山市33.4%（1万2250人）となっている。佐野市は20.5%（4,410人）であり、県内14市部中第10位となっている。



(→統計データⅣ)